

2世が戻り直売所を継続

神奈川県横須賀市・十三峠開拓

神奈川県横須賀市の十三峠^{じゅうさんとうげ}開拓は、三浦半島の東側、東京湾を望む標高100mほどの高台にあり、見下ろすと、米海軍横須賀基地が見える。

1948年、山林に23世帯が入植した。中には県の開拓者養成所を経て入植した人もいた。

馬の背のような山なので畑が狭く、斜面にも畑を作ったがそれでも量が集まらず、農協の市場出荷も採算割れが続いた。

ふもとの町から毎日のように、下肥を樽に入れて険しい山道を登って肥料とした。夜明け前には海へ行き、ドラム缶に海水をためて塩を作って販売もした。

ヤギ、牛、鶏など、あらゆる家畜も飼って、必死に生き延びてきた。

57年、組合員ら21名により、小高い丘の海が見渡せる公園に、開拓記念碑が建てられた。

港を見下ろすと、輸入食料品を満載した外国船で賑わっていた。

高度経済成長期を迎え、離農者も増え、農地は半減していった。しかし、あきらめない人達がおりに、中には米軍基地に勤めながら農業を続けた人もいる。

00年を過ぎ、開拓2世たちが定年退職で畑に戻ってくると、軒先に直売所を作るようになり、近隣住民やハイキングに来た人たちに人気となった。近くの「港の見える丘」がある塚山公園に、多くの人を訪れる。

無人の直売所は年中無休で開いており、イモ類や、ホウレンソウなどの葉物、夏ミカンなどのかんきつ類の他、マーマレードなどのジャム類や漬け物などの自家製品を販売している。

直売所に自家産品を納めに来ていた開拓2世の藤本初江さんは「ここまで登って来て下さるお客さんががっかりしないよう、毎日店は開けて品物を揃えている」と話す。

また、地元の直売グループが集まって、月2回ほどふもとで直売店を開いている。

「よこすか野菜」「十三峠野菜」として、市のイベントや地元のスーパーなどに出荷している。

今も6戸ほどの開拓農家が、地元の新鮮な野菜を消費者に届けている。

神奈川県横須賀市・十三峠開拓

- ①調査日 2022年7月21日
- ②所在 横須賀市長浦町
- ③地区の沿革 昭和23年に20戸が入植。
- ④設置年月日 昭和32年1月
- ⑤設置者 十三峠開拓農業協同組合
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文（表面） 開拓記念碑
- ⑧碑文（裏面） 十三峠開拓農業協同組合
組合長、理事2名、組合員18名の氏名
- ⑨現在の状況 長浦三丁目公園内で管理されている。



